

(滋賀県記者クラブにも同時提供)

平成20年11月18日資料提供

## グループ対抗里山デジカメ選手権入選作品決定 ～公開審査会の結果概要～

近畿中国森林管理局（箕面森林環境保全ふれあいセンター）では、身近な森林（もり）の再発見をテーマとした「グループ対抗里山デジカメ選手権」応募作品の公開審査会を下記の通り開催し、最優秀賞（林野庁長官賞）1組、琵琶湖博物館長賞 1組と優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）7組を決定しましたのでお知らせします。

### 記

- 1 日時：平成20年11月2日（日）13：15～16：15
- 2 場所：滋賀県立 琵琶湖博物館ホール（滋賀県草津市）
- 3 参加者：約80名
- 4 審査員  
今森光彦氏（写真家）  
只木良也氏（農学博士）  
青山佳世氏（フリーアナウンサー）
- 5 審査結果（別紙のとおり）

林野庁 近畿中国森林管理局  
箕面森林環境保全ふれあいセンター  
担当：自然再生指導官 上村 邦雄  
連絡先：京都市上京区西洞院通り下長者町下ル  
丁子風呂町102 京都農林水産総合庁舎内  
電話：075-414-9049  
ホームページ：<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/fureai/>  
検索キーワード【箕面森林】

## ○ 一次審査総評 今森光彦氏（写真家）

今回は去年に比べて応募がたくさんあり、すごく質が高くて、バリエーションに富んでいました。一次審査を担当させていただいて、嬉しくて、楽しく審査させていただきました。

学校グループ、森林ボランティアグループ、一般グループ共それぞれ個性があり、楽しく審査させていただきました。

学校グループの内小中学生のグループは、技術的にはもう一歩という作品が多かったですが、生き物を見る視点、環境を見る視点など、ものの見方が伝わってきました。もう少し写真の技術がマスターできれば、すごく良い写真になると思います。カメラも良くなってきおり、すぐ技術的に習得できますので、たいへん楽しみです。

森林ボランティアグループと一般グループですが、誠意をもって自然の事を愛しておられ、心から取り組んでおられ、熱気が伝わる写真が多かったです。

最終審査でのスピーチが楽しみです。

## （最終審査）審査員の総評

### ○ 今森光彦氏（写真家）

今回も楽しく審査をさせて頂きました。去年に比べますと数倍レベルが高くなって大変楽しかったです。

一次審査で、今日見て頂いた30組を選ぶのに難儀しました。最近デジカメは性能が良くなり、良く写るんです。綺麗に写るんです。その中で下手な写真がかえって目立つんです。思わず足を止めて「どのようにしたらこんな写真が撮れるんだろう」と見えてくる。今日並べている作品はみんな素晴らしい作品ばかりなんです、そんなふうな時代がやって参りまして不思議なものです。

今日そんな中で荒選びをさせて頂いた中で接戦のすえ見事受賞者が決まった訳ですけれども、僕自身は、今回里山ってタイトルが付いてますけど、里山って日本中何処でも似ているんです。活動されてても大体同じ活動をされています。大体木を伐って、みんな楽しんでる、という構図が似ていると思います。

そして木も良く似てるでしょう。東北から九州まで、もちろん植生は違いますがけれども、大体なんか良く似てるんです。この何処でも同じ環境であると言うのがすごく大事で、里山の日本のいいところかなという気がするんです。

だからこれに甲乙を付けるのは非常に難しいですね。それぞれ皆さん思いがある訳で、今日発表して頂いた方みんな伝わって来ます。それぞれ「木を愛している」とか、「土地を愛している」とか、「もっと自然が増えたらいいなと思いました」とか、ひしひしと伝わって来て、私も共感して、本当にその通りだと思います。

その中でこういうコンテストの場合、何が左右したかということだけ申し上げますと、私自身が考えてるのは、たぶん「夢」の部分じゃないですかね。自分がその「里山」という自然に対する夢を描いている。その描き方が凄くはっきりしている。人に提言出来るものである。そういうものが、これからの町おこしであるとか、個性の無い「里山」ですから、日本中どこでも同じような環境にある「里山」の中で際だって突出してくるヒントを得てるんじゃないかなという気がします。

私の場合はそういう「夢」のある見方をしてくれているというか、そういう所に点数が高くなったという感じがしています。

ともかく今日来て頂いている方々は全部受賞者じゃないかという位の方々なんですけれども、たくさん応募して頂いてありがとうございました。

また、遠くから発表のために来て頂いて本当に感謝しております。どうもありがとうございました。

## ○ 只木良也氏（農学博士）

本当に接戦でございました。実に皆さん上手いんですね。プレゼンテーションも熱がこもったのもありました。

写真というのはものを訴えなければなりません。それともう一つは映像が綺麗でないといけません。私も50年以上写真撮っているのですが、これぞという写真は10枚あるでしょうか。写真は本当に難しいんです。

今日は本当の専門家の今森さんがおいでになるのに、私も偉そうなことを言いながら選ばせて頂きました。その中では何を訴えているのか、何を物語っておるのか、そして映像が上手く表現できているか、これをポイントに選びました。

目出度く入賞したものの一つ他のものとは毛色の変った作品にお目にかかりました。これにちょっと感銘致しました。これは森林・林業部門の4番の「きになる木」という作品でございます。これは、日本の松林に松枯れが蔓延して大変な状況をご存じと思いますが、それに加えて現在は、ナラの木等がどんどん枯れる、カシノナガキクイムシという昆虫による害が出ています。

これを捉えて、実に上手い表現をされております。まず立っている木の葉っぱの枯れている写真が1枚目。その幹に穴が開いている、そこから白い粉がいっぱい吹き出している、これが2枚目。3枚目はその幹の穴を拡大して、こんな穴だよ、と。このコンクールには、ちょっとれ実に見事な作品で、私はこれを実は林野庁長官賞にしたいと言ったんですが、ちょっと学術的過ぎたというところかもしれない、私が注目した作品でございました。

それから、皆さん方おそらく写真がお好きだと思っております。そして里山へ常においでになる。その時にですね、こういふことと一緒に行くと面白いです。同じアングルで、定点観測をすることで行く度に同じ角度で写す。これが5年経ち、10年経つと面白いんです。1年でもですね、四季の写真という春は花、秋は紅葉というのを四季の写真だと思いたいんですが、ある一つの定点を構えて、それで春夏秋冬同じように撮ってみて下さい。これまた面白い写真が上手いくと出来ます。これを定点観測と申しまして科学的にもいろいろ後々ものを言うこととなりますので、山に行つて単に景色が良いと書いて写すというポイントを一つ二つ持ってみて下さい。そうすると面白いです。

## ○ 青山佳世氏（フリーアナウンサー）

皆さん、素敵な写真と発表ありがとうございました。

この里山デジカメ選手権というのは、作品、メッセージ、発表という三本立ての大変高度なことを求めているのですが、今回はどれも皆さんの思いが伝わってくる素晴らしいものばかりでどれを選んでいいか困ってしまいました。ほんとに悩み抜いた挙げ句に心を鬼にして選んだということだけお分かり下さいませ。

やっぱり里山がテーマになっているので自然とか生き物と出来るだけ人とのふれあいのようなものが作品とメッセージの中に出てくるものという視点で私は選んでいきました。そういう意味で、林野庁長官賞も琵琶湖博物館長賞も素晴らしい作品が選ばれたという気がしています。

これから皆さん達は自然や森に対する活動をなさっていくと思うんですけど、観察をしたり山の手入れをしている最中は、どうしても作業をすることが主眼になって「いい」写真を撮るのは二の次になってしまうことが往々にしてあると思います。でもこうしたメッセージ性のある記録の写真を残しておく、次に自分たちの活動を広く伝えていく時にきっといいアピールになると思います。

これから山の中を歩いたり、森林で作業をしたり、いろんなことをする時に、是非、いい瞬間を撮れるよう役割分担みたいなことをして、次にこういった選手権がある時に向けて作業を行いながら作品を撮り続けて頂きたいと思います。

本当におめでとうございました。

## 平成20年度グループ対抗里山デジカメ選手権入選作品一覧

### ◎最優秀賞(林野庁長官賞)

- ◆「絵本の世界 森林の中」 想像力働き隊 (神奈川県横浜市)  
加藤啓子 加藤優佑 加藤俊輝

### ◎琵琶湖博物館長賞

- ◆「山里の暮らし」 友 達 (大阪府柏原市)  
山本安子 池田ひろこ 大川真理子

### ◎優秀賞(近畿中国森林管理局長賞)

#### 【学校部門】

- ◆「3匹のみのり」 虫好きブラザーズ (大阪府高槻市)  
榎村健穂 榎村朗穂 榎村郁穂
- ◆「木もれ日に輝く森」 大月市立鳥沢小学校 M&A(ミ&アヤリ) (山梨県大月市)  
古家綾莉 佐藤漣
- ◆「小さな宝物」 広島県立庄原格致高等学校写真部A (広島県庄原市)  
石田愛美 横山千歳

#### 【森林・林業活動部門】

- ◆「きになる木!」 NPO法人ヒマラヤン・グリーン・クラブ (滋賀県大津市)  
御池吉道 磯部春美 平塚清武
- ◆「大きくなあれ! ~春のアカマツ植栽~」 NPO法人日本森林ボランティア協会 (大阪府大阪市)  
笹智子 毛穴友治 大西由兼
- ◆「森が笑う日」 NPO法人やまぼうし自然学校 (長野県上田市)  
佐藤明希 瑞慶覧明子 北川絵里

#### 【一般部門】

- ◆「森から里へ」 滋賀県立大学里山いきもの愛好会 (兵庫県伊丹市)  
吉川剛明 中西康介

(左からタイトル名、グループ名、住所、下段に氏名を記載)

◎ 最優秀賞(林野庁長官賞)

「絵本の世界 森林の中」

想像力働き隊

加藤啓子 加藤優佑 加藤俊輝



メッセージ

子供が三歳になる頃から、年二度は山に登ります。澄んだ空気、息があがってきて腕はひんやりしている感触に大自然を感じます。

ぐんぐん伸びている根っこは、何かを求めているかの様な生命力を感じます。子供たちの大好きな「ねっこぼっこ」という絵本にねっこの下に住む妖精がいるのですが、家族全員「いるかもね…」と、あまりの迫力に唸ってしまいました。

大きなきのこを発見したときは「(白雪姫の)七人の小人の家ってこんなおうちだったかな？」と小人の大きさを想像し乍ら観察していました。

途中で急に天気が崩れ始め、立ち往生になり、雷・強風・大雨になってしまいました。自然に飲み込まれそうになり、心細い中、静かになるのを待ちました。小雨になり、先程まで道が川になっていましたが、町で見かける水たまりは一つもなく、「お水はどこへ行ったの？」と不思議なほどでした。「森のねっこぼっこが、草が、土が、大量の雨水を吸い取ってくれたんだね。」と下山しました。

しばらくすると、光が射し込み、きれいな虹が出ました。山登りでの自然と体あたりした疲れが一気に吹き飛びました。まるで「オズの魔法つかいみたいだね。」と最後まで森林はわたくし達に”想像力”を働かせてくれました。

人間は様々な環境の中で育っていきませんが、自然を五感で感じる事の大切さは子供の原風景として残り、心の豊かさや、強さになってゆくのだと思いました。

◎ 琵琶湖博物館長賞

「山里の暮らし」

友 達

山本安子 池田ひろこ 大川真理子



メッセージ

①長野県大鹿村の牛飼の生産者に会いに行ってきました。82才のおばあさんがまだまだ牛のエサやり、掃除などされて元気で働いておられました。その笑顔に私達も元気をいただきました。

②取りこわされかけた木造中学校を勇志、卒業生で移築して「延齢草」という集まりの場を作られました。そこでヤギの乳からチーズを作り販売しています。きれいに手入れされたヤギとても人なつこくて幸せそうなのでパチリと撮りました。

③冬の準備にマキがきれいに積まれています。その模様の美しさ、それぞれの木からメッセージを受けとめて撮りました。

大切な山や森の自然を生かして生活されている方々がおられ、私達都会の生活も成り立っていると思います。

そのままになっている人工林を国産材として活用し、光が入る森として生き返らせてほしいですね。

広葉樹が育ち実のなる木が増えれば動物達も里山に降りてこなくなると思います。昔話の日本の森になる様に伝えていきたいと熊森協会の会員になりました。

◎ 優秀賞(近畿中国森林管理局長賞)  
【学校部門】

「3匹のみのり」

虫好きブラザーズ(大阪府高槻市)  
櫻村健穂 櫻村朗補 櫻村郁穂



「木もれ日に輝く森」

大月市立鳥沢小学校M&Aミ&7ヤリ(山梨県大月市)  
古家綾莉 佐藤滯



◎ 優秀賞(近畿中国森林管理局長賞)

【学校部門】

「小さな宝物」

広島県立庄原格致高等学校写真部A

(広島県庄原市)

石田愛美 横山千歳



【森林・林業活動部門】

「きになる木」

NPO法人ヒマラヤン・グリーン・クラブ (滋賀県大津市)

御池吉道 磯部春美 平塚清武



◎ 優秀賞(近畿中国森林管理局長賞)【森林・林業活動部門】

「大きくなーれ～春のアカマツ植栽～」  
NPO法人日本森林ボランティア協会  
(大阪府大阪市)  
笈智子 毛穴友治 大西由兼



「森が笑う日」  
NPO法人やまぼうし自然学校(長野県上田市)  
佐藤明希 瑞慶覧明子 北川絵里



◎ 優秀賞(近畿中国森林管理局長賞) 【一般部門】

「森から里へ」

滋賀県立大学

里山いきもの愛好会(兵庫県伊丹市)

吉川剛明 中西康介

